

OSGS プログラムを終えて

西田 和奏

1. はじめに

皆さんこんにちは。2021年8月から2022年1月にかけて行われた、埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム（通称OSGSプログラム）の前期に参加させていただきました西田和奏と申します。

このプログラムは埼玉県とオハイオ州をリアルタイムで結び、「英語で発信する力」を身につけることを目的とした、参加型のオンラインプログラムです。私は大学で国際関係論のゼミに所属しているため国際関係の理解を深めたい、少人数制のクラスでの学びを通じて英語の能力、特にスピーキング能力を向上させたいという理由から、プログラムへの応募を決めました。参加者は私を含め5人で、前期のテーマは「日米の新型コロナウイルスへの対応の違い」でした。

プログラムが全て終了しましたので、この5ヶ月間を振り返ってみたいと思います。中間レポート（1）、（2）と内容が重複している箇所もありますがご容赦ください。



2. プログラムの内容

・オンライン講義

フィンドレー大学モット教授の講義を受講しました。海外の大学教授は厳しい方という印象があり受講前は少し不安でした。しかし実際には生徒思いで優しく、失敗を恐れず積極的に発言するよう声をかけてくださり、的確なアドバイスもいただきました。

講義では日米の文化・価値観の違いと、適切なパワーポイントの使い方を学びました。少人数の講義であったため、Zoomの注釈ツールを用いながら私たちも主体的に参加できました。また授業中に数回ミニプレゼンテーションを行ったので、講義で学んだことをすぐに実践することができました。



・インタビュー

プログラム中に3回インタビューを行いました。インタビューの相手は、①オハイオ州

フィンドレー大学の学生、②オハイオ州ハンコック郡の経済と保健業務に携わる方々、③フィンドレー市長と医療従事者の方です。②③の方々はネイティブスピードで答えてくださったので、全てを聞き取ることができず悔しい思いもしました。



しかし、聞き取れた単語で前後の意味を推察したり、インタビュー中に質問をしたりすることで疑問を解消できたので、成長できたと感じています。今後は英語を母語とする人たちが話すスピードに慣れ、医療用語など専門的な単語をもっと理解出来るようになるため、より一層英語学習に励んでいきたいと思います。

・フィンドレー大学の学生との交流

このプログラムでは、フィンドレー大学の学生が私たちの手助けをしてくれました。先程述べたインタビューのようにプログラム内の交流だけでなく、数人の学生とは私的にSNSで会話を続け、友人としての交流も深めることができました。大学で履修している授業の紹介や日本の映画、最終プレゼンテーションの内容の相談など様々な話題について話しました。フィンドレー大学の学生から、桶川市出身の俳優本木雅弘さんが主演した映画「おくりびと」を見たという話を聞いた時はとても驚きました。10年以上も前に公開された日本の映画をアメリカの学生が見て下さっていることを嬉しく思いました。

このようにプログラム内だけで交流を終わらせずに、友人関係を築くことができました。彼らとは今後も連絡を取り合い、近い将来会えたら嬉しいです。

・埼玉県に関するプレゼンテーション

私たちはそれぞれに所縁のある場所をオハイオ州の方々に紹介しました。私は江戸時代中山道の宿場町として栄えた桶川市に住んでいることから、中山道と沿道に建つ「中山道宿場館」から Zoom 中継を行いました。詳細につきましては中間レポート (2) に書きましたので、あわせてお読みいただけますと幸いです。

中継終了後に、中山道宿場館館長の武田さんとお話しさせていただきました。その中で、多くの外国人観光客は東京を訪れるが、その足で東京に隣接する埼玉に足を運んでもらいたいがなかなか難しいといった埼玉県が抱える観光の課題も伺いました。

休日の午前中の市街地で、一人英語で話すことは少し



緊張しましたが、オハイオ州の方々に、埼玉県に興味を持ってもらうことができ良かったと思います。

・最終プレゼンテーション

12月4日（土）モット教授の講義での集大成として、私たちは今期のテーマと各々の興味分野と絡めながら最終プレゼンテーションを行いました。私は貧困や格差に関心があるため、「貧困層に対する日米の対応の比較とその考察」という主題で発表を行いました。

・成果報告会

1月9日（日）に行われた成果報告会が OSGS プログラム最後の活動でした。5ヶ月間で学んだ全ての事柄を、講義で学んだプレゼンテーションのコツを用いて英語で発表しました。皆でリハーサルを何度も重ねて当日に臨んだ結果、無事に終わることができました。報告会に参加してくださった方々からあたたかい言葉をたくさんいただいたことがとても印象に残っています。

成果報告会を終えプログラム修了証を授与された時、これまでの活動内容を思い出して達成感を味わうことができました。



・埼玉親善大使としての活動

OSGS プログラム参加者はプログラム期間中、埼玉親善大使に任命されます。中間レポート（2）でも述べたように、私たちは埼玉親善大使として、①Instagramで埼玉県の魅力を発信、②県産品紹介と埼玉県の特産品を栽培する農家・埼玉伝統工芸会館訪問を行いました。②で行ったことは、Instagramで定期的に発信をしてきました。

ここでは、深谷市内のねぎ農家と埼玉伝統工芸会館の訪問について紹介します。

私はメンバーの Momoko と深谷ねぎ農家の吉岡様を訪問させていただきました。埼玉県のねぎ生産量は全国第2位（2020年）であり、特に「深谷ねぎ」は全国的に有名なブランドねぎです。北海道や秋田県の農家と比べ、一農家当たりのねぎ畑面積は狭いですが、限られた土地で白根の部分を長くする土寄せや夏の厳しい暑さ対策、あえて手作業でねぎの苗を植えるなど、より立派で美味しいねぎを栽培するために様々な工夫を行っていることを知りました。吉岡様のお話を伺い、ねぎ栽培に対する誇りを感じました。



また小川町の伝統工芸会館では、手すき和紙制作体験を行いました。その後会館の方に常設展示室を案内していただき、展示品の解説をしていただきました。ここには県指定の伝統的手工芸品がすべて展示してあり、初めて見る伝統工芸品も複数ありました。伝統を継承しつつも、現代の若者に受けるようなデザインを考案し、存続していく染め物（浴衣）がある一方、職人不足に悩まされる伝統工芸もあると伺い、伝統を継承していくことの難しさを感じました。



3.5ヶ月間のプログラムを通して学んだこと

プログラムを通して多くのことを学ぶことができました。主な学びについては、以下の三点です。

一つ目は日米の文化・価値観の違いです。今期のテーマの「新型コロナウイルスへの対応の違い」には文化の違いが大きな影響を与えていることも学びました。例えばコロナ禍におけるマスク着用についてです。日本ではマスク着用が義務ではないにもかかわらず、多くの人が着用しています。一方アメリカでは、個人主義の傾向が強いため、マスク着用義務は自由や権利を侵害されているように感じることから、着用を拒む人が多くなることでした。

二つ目は英語で発信する力です。特に英語でのプレゼンテーションスキルについては、これまで学ぶ機会がほとんどなかったため、とても有意義でした。

三つ目は埼玉県についてです。埼玉県で生まれ育ったものの、知らなかったことがたくさんあり少し恥ずかしくなりました。親善大使として埼玉の魅力を発信していく活動を通じて自分自身も埼玉の魅力に気がつくことができました。

4. 今後へ向けて

講義、インタビュー、地元紹介などを通じて、本プログラムの到達目標である「英語で発信する力」を身につけることができました。しかし背景や価値観の異なる人々と適切なコミュニケーションを取っていくためには、一方的に発信するだけでなく相手を理解・尊重する力も求められます。グローバル化によってより様々な人々と関わる機会が増えていると思いますので、英語で発信する力と相手を理解する力の両方を大切にしていきたいです。

また、埼玉親善大使の任期は終了しましたが、「親善大使 OG」として今後も身近な友人や、9月からはイギリスへ留学を予定しているため現地の学生に有名な場所や特産品だけでなく観光パンフレットには掲載されていないような埼玉県の魅力も伝えていきたいと思っています。

5. 終わりに

この5ヶ月間は本当にあつという間でした。新型コロナウイルス感染症の影響で、できなくなったことは多いと思います。しかしこのOSGSプログラムのように、コロナ禍だからこそ生まれたプログラムもあります。このプログラムは、隔週の夜に行われるため、学業や仕事との両立が可能です。OSGSプログラムでは通常のオンライン留学のように講義を受講し英語の能力を高められるだけでなく、姉妹州であるオハイオ州の方々とも交流することができます。そして何より、埼玉県のことをもっと好きになれるプログラムです。また志高い参加者とも出会うことができます。私は今回一緒にプログラムに参加したKaho、Miki、Miyu、Momokoと一緒に活動できて本当に良かったです。OSGSプログラムの活動はもちろん、様々な活動に一生懸命取り組んでいる4人から刺激を受けました。埼玉県在住であるとはいえ、このプログラムに参加しなければ出会えなかったのも、4人との素敵なご縁を今後も大切にしていきたいと思えます。

OSGSプログラムは今後も続いていく予定です。英語や留学に少しでも興味のある方、新しいことに挑戦してみたい方は、このプログラムに応募されることを心からおすすめします。

最後に、OSGSプログラムをコーディネートくださった国際課の皆様、フィンドレー大学のモット教授、川村教授、学生の方々、インタビューに応じてくださった皆様、親善大使の訪問を快く迎えてくださった農家・伝統工芸会館の皆様、そして5ヶ月間切磋琢磨し合ったKaho、Miki、Miyu、Momokoに、心から感謝申し上げます。

先日後期プログラムが開始しました。後期プログラムの参加者とも交流を深め、協力して埼玉県の魅力を国内外へ発信していきたいと思っています。

拙い文章でしたが、最後までお読みいただきありがとうございました。今後OSGSプログラムがさらに発展していくことを願っています。

